

平成 25 年度事業報告書

研究所の設立者である大倉邦彦は、『大倉山論集』第 8 輯（昭和 35 年 7 月発行。30 周年記念号）において、次のように述べています。「科学文明のみが絶えず進歩して、一方、精神文化の方面はこのまま足踏みの状態を続けているならば、折角発達進歩した科学の力も人間に真の福祉を保証する訳には行かないかも知れない。」。大倉邦彦のこのような指摘は、現代社会にも通底する、極めて重い課題といわなければなりません。

公益財団法人移行後 2 年目となる平成 25 年度（以下「25 年度」という。）では、こうした課題認識のもとに策定した次の三つの柱で構成される事業計画に基づき、定款第 4 条に定める公益目的事業を着実に推進しました。

- ①精神文化の研究及びその成果の普及
- ②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及
- ③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備

1 精神文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第1号)

(1) 精神文化の研究

精神文化の研究は、東西両洋における精神文化の科学的研究を行い、その成果を国民に提供することにより、文化の振興の原動力となる国民の知性及び道義の高揚を図っているものです。25 年度では、心豊かな国民生活の実現と文化の振興に資する次のような精神文化の研究及びその成果の普及活動に積極的に取り組みました。

ア 実用の学の研究

実用の学の研究は、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を進めているもので、25 年度では、大倉書店創業者である大倉孫兵衛の出版事業の調査と経営理念の研究を進めました。その研究成果の一部について、『大倉山論集』第 60 輯（700 部発行）に錦絵目録を掲載しました。

併せて、大倉邦彦が開設した富士見幼稚園の教育理念の調査・研究を中心とした近代の幼児教育の研究に取り組みました。

イ 東西文化融合の研究

平成 25 年は天心の生誕 150 年・没後 100 年にあたることから、岡倉天心に着目した研究を進め、この研究成果の一部について、大倉山講演会で公開するとともに、『大倉山論集』第 60 輯で特集を組みました（付属明細書 2 頁及び 3 頁参照）。

また、小説に見る近代化をテーマとして、近代西洋文明の入り口であった横浜などを題材に、明治期の小説家が描いた小説や、現代の作家が描いた歴史小説などを採り上げて、異文化との交流による日本人の精神の変化について研究を進めました。この研究成果の一部は、平成 26 年 3 月に開催した大倉山講演会で公開しました（付属明細書 2 頁参照）。

ウ 創立者及び研究所関連資料の研究・調査

精神文化についての科学的研究及びその普及活動を行う上で、研究の基礎となる資料の収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的かつ有効に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創立から

現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施していますが、25年度ではそれに加えて、江原邦興家所蔵資料の目録を作成しました。

また、劣化が進行しているオープンリールテープとSPレコードのデジタル化事業等を中心に取り組みました。その結果、オープンリールテープを15本デジタル化することができました。

(2) 精神文化研究成果の普及

精神文化研究成果の普及は、上記「(1)精神文化の研究」等の研究成果を国民生活の向上充実に役立つように公開しているものです。25年度では、次に掲げた講演会等を実施しました。

ア 講演会等の開催

大倉山講演会は、大倉山記念館指定管理者と共催で4回、大倉山秋の芸術祭実行委員会との共催で1回、開催しました（付属明細書2頁参照）。

公開講演会は、愛知大学との共催で1回、横浜市中央図書館と共催で1回開催しました（付属明細書2頁参照）。

イ 資料の展示

研究成果公開の一環として、特別資料展を2回、研究所資料展を2回開催しました（付属明細書3頁参照）。

ウ 印刷物の編集及び発行

研究紀要『大倉山論集』第60輯を刊行しました（付属明細書3頁参照）。

そのほか、「研究所のしおり」を全面改定するとともに、講演会チラシ、展示会チラシ、展示解説等を編集刊行しました。

エ 電子情報の発信

当法人のホームページ等を活用し、研究成果や講演会、展示会等の情報を発信しました。

また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用として、4月からTwitterを開始し、毎日最新情報の発信をしています。年間、1,000回を超える情報発信を行いました。

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第2号)

地域における歴史・文化の研究及びその普及に関する事業として、横浜市港北区役所など11機関・団体と連携して、講演、授業、情報誌等への原稿執筆、館内見学会、地域散策等を行いました（付属明細書4頁、5頁及び6頁参照）。

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

附属図書館は、哲学・宗教・歴史など入門書から専門図書まで約10万冊を備えた精神文化の専門図書館です。毎週火曜日から土曜日、午前9時半から午後4時30分まで一般公開（無料）しています。25年度からは新たに27年度までの3箇年計画で、全蔵書のインターネット検索に向けた取組を開始しました。

(1) 専門図書館としての機能充実

貴重コレクション全23種類についての解説を作成し、ホームページ（HP）に公開しました。

また、「貴重書」「古文書古記録影写副本」「金沢甚衛旧蔵資料」などの目録をHPで公開しました。

(2) 図書館情報管理システムの導入

利用者の利便性向上と業務の効率化のため、図書館情報管理システムを導入しました。11月1日より、システムを稼働させ、一般図書6万点については3月末までにほぼ全て、貴重コレクション4万点のうち約14,000点については、インターネットによる蔵書検索が出来るようにしました。

(3) 全国に開かれた図書館としてのサービスの充実

精神文化に関する入門書・教養書の購入・閲覧・貸出の拡大をめざし、関連団体・図書館と協力体制を組み、情報提供機能の充実に取り組みました。また、各団体主催による研修への職員参加および他館視察等、各種情報の収集や交流を積極的に行うことによりスキルアップを図り、レファレンスサービスをはじめとする情報提供機能の充実に取り組みました。

利用者の環境改善として、蛍光灯からLED照明への付け替え、空気清浄器の設置、書庫入り口のスロープ設置を行いました。

(4) 図書館のPR

ア HPの活用

貴重コレクションや新着図書の紹介、展示案内など、HPを活用して図書館のPR活動を行いました。また、情報管理システムの導入によって、11月1日よりHPとの連動によるインターネット検索ができるようにしました。

イ 所蔵資料の紹介展示

図書館資料展3回と、ミニ展示3回を開催しました（付属明細書6頁参照）。

ウ 講演会と見学会受入

インターネットによる蔵書検索開始を記念し、第29回大倉山秋の芸術祭参加企画として大倉山講演会（11月1日開催。テーマは「知の拠点から知の発信へ～変わる大倉精神文化研究所附属図書館～」）を行いました（再掲）。

また、施設見学会受入も行いました（付属明細書6頁参照）。

公益財団法人大倉精神文化研究所

平成 25 年度事業報告書の付属明細書

1 精神文化の研究及びその成果の普及

(1) 精神文化の研究

ウ 創立者及び研究所沿革の研究・調査

沿革史資料の整理作業は、登録点数 19,160 点になりました。それとは別に、書簡 11,237 点と、葉書 1,578 点まで登録しました。

なお、研究・調査の一環として、次に掲げた各機関等へ出張しました。

出張先	時期
・早稲田大学	4月9日、11月16日
・渋沢史料館	4月20日
・横浜新都市ビル	4月26日
・足達宅での調査	6月8日
・日本図書館協会	6月19日、11月27日
・神奈川県立公文書館	7月11日
・慶應義塾大学(日吉)	7月27日
・菊名コミュニティハウス	8月7日
・神奈川県立図書館	8月9日
・横浜都市発展記念館	8月13日
・開港資料館	8月13日
・横浜市中心図書館	8月13日、9月17日、9月18日、9月20日、9月25日、9月30日、11月26日
・東京藝術大学	9月2日
・横浜開港記念会館	9月21日、9月29日
・横浜三溪園	9月28日
・関東学院大学関内メディアセンター	10月10日
・旧平櫛田中邸	10月19日
・明治神宮国際神道文化研究所	10月19日、11月16日
・虎屋ホール	11月17日
・日本伝統文化振興財団	12月19日、1月15日、1月30日
・東急電鉄本社	1月21日
・折本屋	1月23日
・本法寺	1月23日
・菊名地区センター	1月29日
・港北図書館	1月30日
・港北公会堂	2月22日

(2) 精神文化研究成果の普及

ア 講演会等の開催

①大倉山講演会（共催：大倉山記念館指定管理者 会場：横浜市大倉山記念館ホール）

回	開催日	演題	講師	参加人数
第59回	4月20日	開港場横浜と岡倉天心	西川武臣	128人
第60回	5月18日	水谷鉄也という彫刻家 —彫塑会・東京美術学校・大倉精神文化研究所—	迫内祐司	52人
第61回	6月15日	天心の中の日本と西洋	小林 亜紀子	101人
第62回	11月1日	初めて明かされる大倉精神文化研究所附属図書館の全容 —貴重コレクションを中心に—	平井誠二	57人
		図書館OPACへようこそ	関乃里子	
		図書館のエキスパートが語る「伝統ある専門図書館の未来像」	鈴木良雄	
第63回	3月15日	小説に表れた教育、試験	茂住實男	35人

② 公開講演会（共催：愛知大学 会場：横浜市大倉山記念館ホール）

回	開催日	演題	講師	参加人数
第11回	7月13日	中国北方における水不足と農業 —寧夏回族自治区の例を中心として—	馬場毅	80人

公開講演会（共催：横浜中央図書館 会場：横浜中央図書館ホール）

開催日	演題	講師	参加人数
9月25日	天心の少年時代と英語教育事情	茂住實男	110人
	岡倉天心とシャーロック・ホームズ	田中喜芳	

イ 資料の展示

①特別資料展

開催時期	開催場所	テーマ	入場者数
9月18日～30日（13日間）	横浜中央図書館	シャーロック・ホームズを原書で楽しんだ 岡倉天心	—
10月1日～26日（19日間）	図書館閲覧室・ 公開書庫	横浜で生まれ育った岡倉天心	284人

②研究所資料展

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第25回研究所資料展 (図書館閲覧室・公開書庫)	7月9日～9月28日 (62日間)	知識教育から人格教育へ —戦時下の教育雑誌展—	787人
第26回研究所資料展 (図書館閲覧室・公開書庫)	10月30日～12月27日 (42日間)	図書館の貴重コレクション展	1,530人

ウ 印刷物の編集及び発行

①研究紀要『大倉山論集』第60輯 (A5判 472頁 700部 26年3月刊行)

《特集 岡倉天心と異文化交流》

特集にあたって	高井祿郎
岡倉天心と異文化交流・研究ノート	小泉晋弥
開港場横浜と岡倉天心	西川武臣
水谷鉄也—近代彫刻師の傍流として	迫内祐司
天心の中の日本と西洋	小林亜紀子
—フェロサ、ハーン、タゴールとの関連からみる東西文化融合のかたち—	
天心の少年時代と当時の英語教育事情	茂住實男
岡倉天心とシャーロック・ホームズ	田中喜芳
幼少期の岡倉天心、再論	平井誠二

《論説》

大正14年の宮内省待医寮臨時診療所の活動について	堀口修
宮内官大礼服制の改正と文官大礼服改正案	刑部芳則
タゴール観の転換にみる日本人の自他認識の変遷	李有雲
米軍基地所在地における対米軍観の変化	
—神奈川県茅ヶ崎市(町)の場合—	栗田尚弥

《資料紹介》

大倉孫兵衛出版錦絵目録	林宏美
貴族院議員子爵久世通章の日記—「(明治25年)雑記」—	中央大学「久世家文書」研究会

受贈図書一覧

所報

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及

① 横浜市大倉山記念館等次の5機関・団体と連携して事業を実施

【横浜市大倉山記念館(指定管理者)】

平成25年の大倉山講演会(詳細は、公開講演会の項を参照)を共催しました。

【東急東横線菊名駅】

大倉山駅で開催された「大倉山駅メモリアル写真展～懐かしい写真で駅と街の変遷を辿ります～」(3月1日～5月31日)に、所蔵する写真の画像データを提供しました。

【愛知大学】

7月13日に公開講演会（詳細は、公開講演会の項を参照）を共催しました。

【篠原城と緑を守る会、鶴見川舟運復活プロジェクト】

2月20日に「鶴見川流域の鉄文化」シンポジウムを鶴見川流域センターにおいて開催しました。

② 他機関・団体からの依頼講演・講義

【新羽小学校・土曜塾】

8月3日 和船による鶴見川自然観察 平井誠二

【大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会】

11月9日 地域と歴史を知るふるさと発見ツアー 林 宏美

【港北区地域支援研修】

11月11日・11月20日 郷土史から学ぶ地域課題～地域特性や住民の価値観を踏まえた地域へのアプローチ～ 平井誠二

【横浜市建築保全公社(歴史的建造物見学会)】

12月11日 大倉山記念館の歴史について 平井誠二

【西尾市市制60周年記念事業、『吉良家日記』発刊記念講演会】

12月14日 『吉良家日記』からみる吉良家三代の活躍 平井誠二

③ 原稿執筆

『楽・遊・学』港北区区民活動支援センター情報紙、連載「シリーズわがまち港北」
第172回（4月1日）「まちの中のサイン―「大倉山さんぼみち」つて何だろう？―」
林宏美

第173回（5月1日）「「大倉山さんぼみち」を歩いてみよう！―その1・大倉山駅～鶴見川―」
林宏美

第174回（6月1日）「地区分けから歴史が見える」 平井誠二

第175回（7月1日）「「大倉山さんぼみち」を歩いてみよう！―その2・新横浜駅～鶴見川―」
林宏美

第176回（8月1日）「「大倉山さんぼみち」を歩いてみよう！―その3・菊名駅～新横浜駅―」
林宏美

第177回（9月1日）「さんぼみちの寄り道―鶴見川3題―」 平井誠二

第178回（10月1日）「「大倉山さんぼみち」を歩いてみよう！―その4・菊名駅～みそね公園―」
林宏美

第179回（11月1日）「「大倉山さんぼみち」を歩いてみよう！―その5・大倉山駅～みそね公園―」
林宏美

第180回（12月1日）「後日談いろいろ―その3―」 平井誠二

第181回（1月1日）「区内散歩―『広報よこはま』を読む―」 平井誠二

第182回（2月1日）「小机が生んだ印刷王―バイブルの村岡さん―」 平井誠二

第183回（3月1日）「小机の旧家村岡家―広重の袋戸絵―」 平井誠二

『せんときょう・かんとく NEWSLETTER』 専門図書館協議会関東地区協議会会報

第 241 号 (4 月 19 日) 「進化する精神文化の専門図書館」

平井誠二

『東京湾西岸地域における旧帝国海軍軍事遺跡の基礎的研究』 科学研究費補助金研究報告書 (3 月)

「戦争末期の海軍による大倉精神文化研究所の利用について—海軍気象部の大倉山移転と水路部の資料疎開を中心に—」

林宏美

④ 大倉精神文化研究所や大倉山記念館、港北区に関する記事執筆の調査に協力

次の雑誌・新聞・ウェブ等に掲載されました。

『神奈川新聞』 4 月 2 日、4 月 17 日、5 月 13 日、5 月 14 日、7 月 9 日、9 月 17 日、9 月 19 日、9 月 26 日、10 月 29 日、10 月 31 日、12 月 3 日、3 月 11 日

『読売新聞』 4 月 5 日、6 月 7 日、11 月 30 日、2 月 14 日

『ぱど』 NO. 1225 4 月 5 日

『週刊仏教タイムス』 4 月 11 日、9 月 19 日

『朝日新聞』 4 月 17 日、4 月 19 日、5 月 15 日、7 月 3 日、10 月 8 日

『URBAN[アーバン]』 5 月 9 日

『東京新聞』 7 月 7 日

『MUGEN(新生紙パルプ商事社内広報誌)』 8 月 1 日

『リビング』 横浜東 9 月 21 日

『タウンニュース』 港北区版 3 月 6 日

ウェブマガジン「はまれぽ.com」

「菊名駅近くの住宅街にあるロータリーができた経緯は？」 6 月 2 日

「かつて東急東横線東白楽と反町駅の間、幻の駅があった？」 8 月 21 日

「幻の東急東横線「本横浜駅」、たった 3 年で廃駅になった理由とは？」 10 月 12 日

「東急東横線大倉山駅の近くに、天然氷を張ったスケートリンクがあった？」

10 月 30 日

「かつて綱島は温泉町として有名だったって本当!？」 12 月 4 日

「かつて港北区にあった百目鬼堀 (どーみきほり) の名前はどこから来たの？」

2 月 20 日

⑤ 大倉精神文化研究所・大倉山記念館等の見学案内

港北図書館友の会 5 月 26 日

原田様他 6 月 25 日

第 4 回歴史的景観保全委員連絡調整会議 7 月 23 日

3 附属図書館の運営及び図書資料の整備・充実等

(1) 図書館の運営

【25年度図書館利用の実績】

開館日数	入館者数	図書貸出冊数	閉架図書閲覧冊数	複写枚数
234日	5,764人	6,432冊	154冊	298枚

(2) 図書資料の整備・充実

【25年度実績】

ア 25年度受入図書実績

蔵書冊数	閉架図書		開架図書	
	購入	寄贈	購入	寄贈
499冊	350冊	149冊	787冊	31冊

※25年度末の蔵書等：図書・AV総数：100,733冊・点

(閉架図書：79,418冊・AV：179点、開架図書：21,274冊)

イ 貴重図書等の整備

貴重図書等の修理・修復：10冊（累計708冊）

(3) レファレンスサービスの充実と図書館のPR

【25年度実績】

ア レファレンス件数：63件

イ 資料展（場所：附属図書館閲覧室）

	タイトル	期間	入場者数
第9回	岡倉天心と異文化交流	4月1日～6月29日	1,135人
第10回	図書館貴重コレクション展	10月30日～12月27日	1,530人
第11回	資料展『曼荼羅』	1月7日～3月31日	1,855人

ウ ミニ展示（場所：附属図書館閲覧室）

タイトル	期間	入場者数
アフリカ	4月2日～4月13日	188人
神奈川の武将	4月18日～6月7日	646人
富士山	6月8日～7月6日	344人

エ 施設見学会受入

計13回（202人）